つくしだより　2026年７月号より

ことばをこえる、豊かなもの

＜今月の聖句＞　「探しなさい。そうすれば、見つかる」
（マタイによる福音書７章７～８節）

人はことばで互いを理解します。でも、ことばだけですべてを理解することはできません。

ある保育園の３歳児クラスの終わりの会で、一人の男の子がしょんぼりしていました。保育者が子どもたちに「今日みんなにきいてもらいたいことある？」と投げかけると、ほとんどの子が「はーい」と手を挙げます。
だいちゃんに「みんなにきいてもらいたいことあるかな」と向けると
「悲しいこと…」と一言。楽しかったこと、うれしかったこと、だけでなく、悲しかったこと、ネガティブなこともクラスでは話題になります。
「悲しいことあったの？」と返しても、だいちゃんは両手で頭をかくだけで、言葉がでない。「どんなことがあったの？」ときくと、「ドッヂしてたとき…」と言い、後が続かない。隣の子らが助け舟を出してくれるが、どうも違うようで、「う～ん」と困った様子。

そこで、保育者が尋ねました。「悲しかったときの感じって、どんな大きさ？」。すると、だいちゃんは途端にまっすぐ座って、保育者をしっかり見て「これくらい」と勢いよく両手を広げた。保育者も同じくらい両手を広げて、「そっか、こんなに悲しかったの」と返すと、だいちゃんはもっと大きく両手を広げ、「でっかい丸の、これくらい」と大きな丸を空に描く。そして、保育者は「そっか、これくらい悲しかったんだね」と同じく真似して返しました。

わたしたちは「悲しいこと」と言われると、何があったの、どうして悲しかったの、と聞こうとします。でも、そのとき、子どもが伝えたいのは、もしかしたら、「こんなに悲しかったんだよ」という、気持ちそのものなのかもしれません。

先ほどのクラスで、運動会が開かれた日の終わりの会でこんなこともあったそうです。「今日はどうだった？」と聞くとみんな「たのしかった～」
そこでいつものように、保育者が「どれくらい楽しかった？」と尋ねると
子どもたちはニコニコしながら、人差し指と親指で小さめの丸をつくり、さらに目まで細め笑顔で「これくらい」と表した。それを後で振り返った保育者は「そうだよね、待ち時間も長く、退屈なときもあったし」と妙に納得。それでも、みんな小さな「楽しい」を感じようとしてくれていたんだと、子どもたちの優しさにあらためて感激したそうです。

子どもたちと過ごす空間には、ことばを超える、豊かな心が至る所に詰まっているんですね。

（つくし保育園園長　つだかずお）